

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人清須市社会福祉協議会

令和4年度事業報告

令和4年度は、コロナを取り巻く環境が落ち着き、通常地域活動が徐々に再開し始めてきました。令和2年3月からスタートした特例貸付は、2年半延長し続けていましたが、令和4年9月末をもって終了しました。その状況の中で生活困窮者支援を徐々に縮小し、従来の地域福祉活動を増加させるなどニーズの変化にあわせて事業を進めてきました。

従来から懸案事項であったデイサービス事業を廃止したことで法人の大幅な赤字額は削減されました。また、地域包括支援センターを2か所にしたことは、市民の相談窓口が身近になり、訪問活動が短時間で行えるなど業務効率も図られ、大きなメリットがありました。

また、令和5年度開設の清須市成年後見支援センターの受託に向けて、市との調整や社協内部の意思決定や体制整備も進めてきました。

フードドライブに取り組む企業等の増加を図るとともに、身近な場所で寄付ができる環境も推進できました。

さらに、福祉施設では市内3か所の特別養護老人ホームでもフードドライブ活動に取り組んでいただき、社会福祉法人の公益的な役割を実践するための連携強化と寄付文化の醸成や支援の輪を拡充させることができました。

食品配布会では、これまで食品を受け取っていた方が自らの意思で袋詰めボランティア活動に参加するなど相互支援の活動も見られるようになってきました。

生活支援体制整備事業では、従来の1名の生活支援コーディネーターを3名体制(市全体1名、西枇杷島・新川1名、清洲・春日1名)に拡充させ、サロン活動の活性化を図る目的で、「つながり広場」を開催し、参加者が地元地域で活動が展開できるためのサポートを実施しました。

日常生活自立支援事業では、増加する相談や支援要請に対応できるように、生活支援員を1名から4名に増員し、その支援体制の構築を図りました。

職員研修においては、インボイス制度、電子帳簿保存法改正、ハラスメント研修、虐待防止法の理解、家計管理の手法、ヒヤリ・ハットの情報共有、望まれる職員像の再確認、事業所経営の視点などをテーマに学習を進めました。

また、職員の雇用管理と福祉人材の確保を目的とした定年延長制度などを構築いたしました。合わせて、特徴的な年齢構成により平均年齢が年々上がる中、若手人材の育成が急務となり、中長期的な採用の取組みを始めました。

以上のように、コロナの状況を踏まえながら、法律改正、今求められている市民ニーズや社会的な役割を実現するための取組みを進めることができました。

＜清須市社会福祉協議会 第4次総合計画体系図＞

理念	種別	方向性	目標
私たち一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる福祉のまちづくり	地域福祉活動計画	市民と社協が共に目指す 支え合いのある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①身近な地域での支え合い活動を推進します!! ②誰もが活躍できる清須市を目指します!! ③誰もが認め合い、共に生きる力を育てます!! ④何でも気軽に相談できる社協を目指します!! ⑤権利擁護体制を強化し、将来も安心して暮らせるまちをつくります!!
	発展強化計画	社協が果たす 公益的な役割の整理と、 持続可能な法人基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ①役職員の共通理解の促進と職員育成の強化を進めます!! ②多様なニーズに対応できるよう社協独自事業を拡充します!! ③市民と社協が気軽に情報をやりとりできるしくみをつくります!! ④継続した事業運営のための財源の確保に努めます!! ⑤市民の信頼と安心を得られる確かな法人基盤を構築します!! ⑥安心してサービス利用できる利用者保護の体制を整備します!!
	災害対策計画	市民と社協が共に備える 災害への対策	<ul style="list-style-type: none"> ①災害からいち早く復旧できる組織づくりを進めます!! ②災害発生時の緊急対策を整備します!! ③市民生活の復興を支援するしくみを強化します!!

令和4年度事業報告

<地域福祉活動計画関連>

①身近な地域での支え合い活動を推進します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのブロック社協活動ヒント集を活用し、従来の地域福祉活動に代わる地域の事例を情報提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の創意工夫による活動事例を他の地域にも情報提供することで活動の一助となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・寿会等と連携してモルック等のレクリエーション備品の使い方を紹介し、新しい活動の場を創出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防や孤立防止の観点から寿会内における新しいレクリエーション活動の一助となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を活性化するためのサロン活動の見本となる「つながり広場」を月2回程度の頻度で開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンの見本となる「つながり広場」を開催したことで、新しい活動メニュー（スマートフォン、シールアート、消費生活、食育、モルック、塗り絵等）を提案できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の共助グループづくりの推進を開発するために、市民活動ボランティアセンター運営委員会にて、報酬を伴う助け合い活動に関する意見交換を行ったが、実態の把握や調査が十分ではないことから慎重に取り扱うべきなどの意見が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が共有でき、今後継続して検討していく方向性が確認できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会貢献の呼びかけや地域福祉活動推進のマッチングでは、ファミリーマート市内5店舗にフードドライブボックスを設置することができた。また、西春日井福祉会3施設でフードドライブを初めて実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年々協力企業や寄付件数が増加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のための資器材の整備では、のぼり旗と自転車プレートの配布による啓発活動を行った。また、モルック等の新しい備品を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資材は、福祉活動を実践していることが視覚的にわかるため、市民等にも伝わりやすくなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の助け合える地域づくりのための災害ボランティアコーディネーター連絡会とブロック社協関係者のつながりづくりは、コロナの影響により、制限があったため十分に実践できなかった。 	

②誰もが活躍できる清須市を目指します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動ボランティアセンターの認知度向上のため、ボランティアフェスタにて、出張ボランティアセンターを開設し、PRに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験コーナー、赤い羽根缶バッジ製作コーナーには、多くの市民が参加した。コーナーのスタッフとして企業からの参画があった。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の特技を生かしたボランティア活動ができる場の開発では、ボランティア連絡協議会を中心に各種団体が参画したボランティアフェスタの開催を全面的に支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民がボランティア活動について、興味と関心を抱く絶好の機会となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の関係資器材の拡充では、福祉体験で使用する車いすが大人用ばかりで子供のサイズにフィットしていないという指摘を踏まえ、子ども用車いすを購入した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の特技などの情報収集では、生活支援コーディネーターを中心に情報収集し、記録等をまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域アセスメントシートを更新し、活用することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・社協だより、SNSなどを活用し、ボランティア活動、ボランティア情報のPRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・facebook や LINE による情報提供により、ボランティアの募集、食品配布会の案内、寄付食品の配布案内などタイムリーに情報提供することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを活用した視覚障害者の情報収集等の支援を継続したが、パソコンの機種が異なることによる使いづらさが課題となっていたので、ホームルーターの導入により、自身の使い慣れたパソコンを利用できるようになった。また、他のボランティア活動支援、当事者活動支援にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者当事者団体だけではなく、福祉センターを利用するボランティア団体の活動ツールとなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・新川高校と寿会との交流事業、社協職員による出前講座、夏休みを利用した子ども福祉体験を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進んだ現在、高校生と地域住民との世代間交流、高校生が抱いている福祉の仕事に対する誤解と実際の話、子どもたちに福祉を感じてもらう体験などいずれも貴重な機会となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・企業の専門性を生かした社会貢献活動の新たな取り組みとしては、フードドライブをはじめとして、出前講座の講師等に協力をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会貢献したいニーズに対して、フードドライブや出前講座等実際に活躍の場を提供し、合わせて市民の福祉の向上に貢献できた。

③誰もが認め合い、共に生きる力を育てます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉学習会プログラムメニューについて、内容を整理し選択できるようになった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒、学生等各ステージごとに適切な福祉教育プログラムを開発した。 ・児童生徒の福祉実践教室の講師謝礼等のルールが曖昧だったので、一定のルールを設け統一した考え方で謝礼を出すこととした。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・会社員の福祉教育プログラムを開発した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いのある地域づくりを推進する啓発講演会「男性が参加したくなる地域活動はどう作るのか？」を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動において参加の少ない男性をターゲットにした講演会を開催し、多くの男性参加者が集まった。

④何でも気軽に相談できる社協を目指します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、地域に出向いて、相談窓口と担当職員を積極的に広報する機会は十分に確保できなかったが、生活支援コーディネーターは地区担当制を顔写真付きで PR した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・相談スキルの向上のため、相談支援業務ネットワーク会議（社協内）を開催し、困難事例に対する各部門からの検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目となる相談支援業務ネットワーク会議は、それぞれの分野が持っている情報が一元化され、問題解決のための情報収集力が身につけてきた。
<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を強化するために、各種連絡会議に参加し、情報の共有、課題の共有に努めた。また、同じ世帯に高齢者と障害者など複合的な課題を持つケースが増加しているため、令和4年度から地域包括支援センターと障がい者サポートセンターを総務地域課に位置付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な連携体制が強化できた。

<ul style="list-style-type: none"> 市役所はもとより、病院、保健所、警察、弁護士などと連携を強化し、普段から顔の見える関係づくりを構築した。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターが2か所化になったことを契機として、出前講座、ブロック社協、寿会役員会などを通して相談窓口の広報を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地域が違う方からの電話相談もこちらから折り返すなど丁寧に対応することで、大きな混乱もなく相談窓口の2か所化がスムーズに進行した。

⑤権利擁護体制を強化し、将来も安心して暮らせるまちをつくりまします！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> 日常的な相談業務の中で、専門職（介護支援専門員、病院相談員、司法書士、弁護士等）との連携は充実してきた。 日常生活自立支援事業の生活支援員を3名増員し、体制の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や事例検討の積み重ねにより、社協内部や外部との連携は、年々強化できてきた。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢、障害、生活困窮等の関係機関と定期的な会議を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ケースについての情報共有、意見交換ができた。
<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の利用支援は、それぞれの部署で進めてきた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の利用支援に向けた体制整備は、清須市と協議を継続した。令和5年度に設立することとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に成年後見支援センターを受託することとなった。

<発展強化計画関連>

①役職員の共通理解の促進と職員育成の強化を進めます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉部会2回、発展強化部会2回、災害対策部会1回を開催し、社協事業の要綱、規程の改正などを協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局機構の変更、就業規則、成年後見支援センターの受託、定年延長制度、地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体策定等の議論ができた。

<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を充実させ、部署を横断する横断研修を年4回、係長研修を年3回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 横断研修では、人事評価制度、家計管理、ヒヤリ・ハット、望まれる職員像などについて、係長研修では、係長の役割、電子帳簿保存法、事業所経営などについて理解を深めることができた。
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得助成制度の要領を改正し、対象者の要件緩和、該当資格の増加、事後申請など制度を利用しやすくした。 	
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な人事異動の実施とともに、初めて清須市との人事交流が実施できた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待、ケアマネへのハラスメント対策、家族介護者支援等他機関主催の研修会にも積極的に参加し、研鑽に努めた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 今後の職員の雇用管理と減少する福祉人材の確保のため定年延長制度を制定した。 	
<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度導入後、3年目となり、職員の意識が高まってきたが、制度の課題も明らかとなり、制度改善の必要性が出てきたため、試行期間を延長することとした。 	
<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デイ、有給休暇の取得促進により、仕事と家庭のバランスを意識した働き方を奨励した。また、メンター制度を構築し、新規採用職員の職場への定着を図るための方策を構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の実績として、平均有給休暇取得日数は11.6日となった。

②多様な福祉ニーズに対応できるよう社協独自事業を拡充します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、生活困難になった世帯に対し、一時的な食糧支援では、生活改善しないことが明らかとなったため、年金支給月ではない奇数月に食料配布会を開催し、生活に困っている方の生活支援ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 食糧支援が必要な方を対象に配布会を行っているが、参加人数は毎回増加傾向にある。しかし、これまで食料を受け取っていた方が、袋詰めをするボランティアに参加するなど新たな相互支援の活動が見られた。
<ul style="list-style-type: none"> 新しい事業を市へ提案し、事業の受託を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見支援センターの受託を市と協議し、受託できることとなった。

<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車保険、運転免許有効期間のチェックを強化するとともに、アルコール検知機器を用いたチェックを実施し、適切な安全運転管理を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度も、交通事故なく、業務を遂行できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の向上のため、LINE による迅速な情報提供、市政推進委員へのアンケート調査、職員の業務改善のためのウェブ研修などを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LINE によるメッセージでタイムリーに市民に情報提供できた。 ・市政推進委員へアンケート調査を行い、会員募集の円滑な実施等に向けた情報を確保できた。 ・職員のパソコンスキル向上のための研修を受講し、業務に活かすことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、スマートフォン講座を開催し、高齢者のスマホ操作のサポートができる取り組みを開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの活用による今後の地域福祉活動推進の可能性が広がった。

③市民と社協が気軽にやり取りできるしくみをつくりまします！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙掲載内容検討会議を継続し、事務局と編集委員会の役割分担、社協だより、Facebook、LINE の役割分担などが整理された。また、計画的な編集・発行体制が構築できた。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・広告料収入は、ホームページと社協だよりで引き続き取り組み、財源の確保に取り組んだ。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・LINE の導入により、タイムリーに情報提供することが可能となった。賞味期限が短い食品を有効に活用させたり、ボランティアを募集するなど、すぐに知らせたい情報をすぐに情報提供できるようになった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉学習会等への職員の派遣と必要な福祉情報の発信とニーズキャッチを行った。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応時は、コロナ禍においては、マスク着用等感染防止に注意を払いながら、アウトリーチによる対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても感染防止に気を付け相談支援を継続することができた。
--	---

④継続した事業運営のための財源の確保に努めます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業、委託事業においては、適正人員を検討し、業務が持続可能となる補助金、委託金を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算折衝に当たっては、十分な補助金、委託金を確保することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見支援センターの受託に向けて、センター機能、組織体制、予算の確保等清須市と社協との役割分担を協議した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人の公益的な責務を果たすべくフードドライブ事業を継続した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業にホームページのバナー広告や社協だよりの広告掲載依頼を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、広告収入を確保することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・共同募金活動期間を延長して、またガチャガチャ募金をスーパー等に設置したり、手作り募金箱を設置したりして募金できる機会を増加させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングは実施するに至らなかったが、共同募金活動では、今年度も期間を3月まで延長して実施したことで金額の確保につながった。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉センターの貸館利用を進めるため、予約方法を変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約方法を先着順に変更することで、公平性が高まり、利用者の予約時の負担が軽減した。

⑤市民の信頼と安心を得られる確かな法人基盤を構築します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・収益と人員のバランスを取り、収入の範囲内で支出を行うよう職員の配置を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス事業の廃止に伴う一時的な収入減少はあったが、法人全体ではプラス決算とすることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・財務状況の公表は継続して取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して法令順守についての意識を高めることができた。

<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修は介護保険講習会、安全運転講習等への参加や社会福祉法人指導監査等を通じて改善すべき点はすぐに改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単なる食品配布に留まらず、その他のニーズ把握や課題の解決に向けた相談支援等を実践することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・社協の公益的な取り組みとしてフードドライブ事業から食品配布会を実施し、さらに相談援助事業につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会福祉法人とも連携して公益的な取り組みを効果的に実施できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・西春日井福祉会の3施設においてもフードドライブ活動を実践していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会福祉法人とも連携して公益的な取り組みを効果的に実施できた。

⑥安心してサービス利用できる利用者保護の体制を整備します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・接遇やサービス提供等利用者が気持ちよくサービスを受けられるよう部署ごとに研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署における接遇研修等により、特に目立った苦情等は発生しなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決制度への対応は、令和4年度の苦情状況をまとめて第三者委員へ報告し、アドバイスをいただいた。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関して漏洩した事案については、顧問弁護士とも協議の上、漏洩したであろう方への謝罪文を郵送するなどして適切に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちに再発防止策を講じ、全職員に周知徹底した。
<ul style="list-style-type: none"> ・センターの保守管理、修繕は、必要に応じて保守管理を行うとともに、故障箇所は予算の範囲内で修繕を実施した。空調工事は11月末までに完了させることができた。また、令和5年度に予定されている大規模修繕について、清須市と修繕計画を検討した。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通してヒヤリ・ハットや介護事故記録からリスクの高い場면을職員間で共有した。 ・安全運転講習や自家用車の保険チェック、免許証チェックにより事故防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修にヒヤリ・ハットを取り扱ったことで、ヒヤリ・ハットの意識が高まり、軽微なものも含めて、記録に残すことが意識づけされた。大きな介護事故は、発生しなかった。 ・自動車保険のチェック、免許証チェックにより職員の交通安全への意識が高まった。
<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、火災避難訓練等を行い、定期的な安全管理の確認を行った。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染防止と健康増進の対策は、衛生委員会で、感染症対策委員会を兼ねて開催し、感染症防止のための取組みについて協議した。（年2回） 	

<災害対策計画関連>

①災害からいち早く復旧できる組織づくりを進めます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画（BCP）は、毎年更新し、人事異動にも対応できるようにした。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・東尾張ブロック局地災害時救援活動相互訓練等を実施した。（春日井市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携を強化するための取組みを継続することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安否確認をはじめとする各部署で役割分担すべき共通事項はBCP内においてすでに整理されている。 	

②災害発生時の緊急対策を整備します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等の際、BCPを確認して役割を確認するように促すなど職員がBCPを意識して動くように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からBCPを確認して、緊急連絡をする訓練を実施するため、BCPへの意識が高まってきた。

<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策だけではなく、感染症対策も盛り込んだ改訂版を作成している。 	
--	--

③市民生活の復興を支援するしくみを強化します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の防災訓練打合せへの参加を通して意見交換している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアコーディネーター養成講座は開催できた。講座は10名参加があり、内8名が災害ボランティアコーディネーターに登録した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年一定数の講座受講者がコーディネーター登録を進め、災害時への備えを着実に進めることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・社協だより等で災害テーマの広報、災害ボランティアコーディネーター連絡会の紹介等を行った。 	